

■自然配慮した水辺づくり

延岡工高に金賞

九州大会へ 護岸工事で植栽

24.8.28

延岡工業高土木科のアイデアを生かした河川工事が、自然環境に配慮した水辺づくりの県内事例を発表する「うるおいのある川づくりコンペ」（県土整備部河川課などで構成する「県自然豊かな水辺の

工法研究会（主催）で最高賞の金賞に輝いた。同科の3年生が5～8月、授業を活用して地元の建設会社・岡田工業による延岡川の護岸工事に参加し、植栽を取り入れ生き物の生育環境を整えた活動が評価された。生徒たちは「地元環境を守ることで地域に貢献したい」と意欲を新たにしている。

同科の護岸工事への参加は、発注者の延岡土木事務所と同社の提案で実現。土木業界を担う若者の感性を現場に生かすとともに、後進の育成につなげる狙いだ。

3年生40人のうち中心になったのは有志6人。現地調査や同社との共同検討会を進める中、工事の二環で水辺に敷き詰めた捨て石に注目。捨て石



九州大会を見据え、発表内容について岡田事務（左から2番目）と検討する高校生たち

土の隙間に現場に自生するネコヤナギを植栽すれば、水中根が生き物のすみかや餌場になると予測し、実行した。約1カ月の経過を観察し、エビなどの生き物がすみ着く様子を確認。この実践を、同研究会が宮崎市で21日に開いたコンペで生徒たちが発表。県内の土木事務所や建設業などの14事例を抑え、金賞を受賞した。

国交省や大学関係者ら審査員からは若者ならではの獨創性や、県内でも珍しい高校生と企業連携を評価された。

6人は、10月4、5日に北九州市である九州大会（九州多自然川づくり協議会主催）に出場。工事は終了したが、6人は現地で生物調査を継続する。班長の高田湧豊君（17）は「工事後に川遊びをする地

元の人々を見るとき、地域のために仕事をするやりがいを感じた。発表内容を深め九州大会に臨む」と話している。